

文化継承学合同開催 **2012年6月8日(金)の企画案内** (発表要旨)

第6限 (18時—19時30分)

場所： 119F 教室 (リバティタワー19階)

報告者：**裴 貞烈 (ベー チョンヨル)** 先生

(韓国・韓南大学校文科大学日語日文学科教授、

東京大学総合文化研究科外国人客員研究員)

報告題目：**漢字世界における韓国古代文学—新羅郷歌をめぐって—**

The Study of Hyangga 郷歌：A Korean Ancient Literature in East-Asia

by Bae Jung Yeol

発表要旨：

文学研究の一分野としての文学史はヨーロッパで18世紀に始まった。そして、その学問的研究方法はアジアでは日本が最初に受けいれている。1890年三上と高津の『日本文学史』を初めとして、1910年代早々までの約20余年間、日本文学史著述の隆盛期を迎えている。近代日本社会の要請により著述された日本文学史は、どのような特徴があり、どのような役割を担ってきたのかについて考察する。

そして、日本文学史の抱えている諸問題を受け継ぐような形で、1922年安自山の『朝鮮文学史』が誕生し、韓国文学史も始まる。1920年代から30年代、殖民地という厳しい時代環境下での韓国文学史をめぐっての問題について考察する。特に古代文学史の中の新羅郷歌\*を中心として、民族起源と文学史の役割について考察する。

\*新羅郷歌：古代韓国(新羅)の歌謡。

(およそ1時間の発表と30分の質疑・意見交換を予定しています。——世話人)

以上

世話人・アジア史専修教員：氣賀澤保規